

漁況・海況予報事業 — 抄録 —

涌 坪 敏 明・小田切 譲 二・青 山 宝 蔵・田 中 裕 憲
鈴 木 史 紀・中 川 賢 三・伊 藤 欣 吾

I. 海 況

青森県沿岸の平成3年の海況推移について、日本海沿岸定線観測、太平洋沖合定線観測結果から求めた対馬暖流（日本海）、津軽暖流（太平洋）の流勢指標について平年との比較を以下に示す。

1. 日本海（観測月：3～7月及び9～11月、各月1回）

- ・最高水温（0・50・100m層）：定線内での各層の最高水温

3月は“やや高め”から“はなはだ高め”、9月は50・100mで、“はなはだ低め”、その他の月は“平年並み”に推移していた。

- ・暖流流幅（舳作沖・十三沖）：100m層5℃の離岸距離

舳作沖で4～6月及び11月が“はなはだ広め”から“かなり広め”、その他ではほぼ“平年並み”に推移していた。

- ・水塊深度：舳作線での水温7℃の最深度

7～9月に“かなり浅め”から“やや浅め”、その他では“平年並み”に推移していた。

- ・北上流量：舳作線における地衡流

3月は“かなり多め”、7・9月は“やや少なめ”、その他は“平年並み”に推移していた。

以上の結果から、対馬暖流の勢力は平年に比べ3月は“かなり強め”、9月が“かなり弱め”、その他はほぼ“平年並み”に推移していたものと考えられる。

2. 太平洋（観測月3、6、9、11月、各月1回）

- ・最高水温（0・50・100m層）：定線内での各層の最高水温

3・6月は“やや高め”、11月は“かなり低め”に推移していた。

- ・水塊深度：尻屋線での水温7℃の最深度

6・9月は“やや浅め”から“はなはだ浅め”に推移していた。

- ・南下流量：尻屋線における地衡流

6月は“やや多め”、9月は“やや少なめ”に推移していた。

以上の結果から、津軽暖流の勢力は、平年に比べ3・6月は“やや強め”、9・11月は“やや弱め”に推移していたものと考えられる。

II. 漁 況

平成3年度の漁況の特徴としては、漁獲の増加傾向では前年度に引き続き太平洋近海スルメイカ的好漁と日本海側での暖流系魚類（特にブリ）が、一方、資源の減少が危惧されている太平洋のマイワシは減少傾向が著しくなっていた。

八戸港での近海スルメイカの水揚げ状況は、4,461トンで、過去10ケ年では最高であった前年の約1.5倍となった。北海道道東沿岸でも漁獲が急増し、太平洋系の資源状況が好転していることを示し

ていると考えられる。

暖流系魚類として日本海のブリの漁獲状況は、157トンで好漁であった前年より約30トン増加した。一方、翌年以降の漁獲につながる若令魚がみられなくなった太平洋での旋網によるマイワシの漁獲状況は、約18万トン程度（前年比74%）となり、減少傾向が著しくなっている。